

高血圧症通院者100名について

2009年から9年目の中断者と継続通院者にみる

健康管理の実際についての検討

西宮市・広川内科クリニック 広川 恵一（医師）
【共同研究者】木村優美 大浦聖子 渋谷淑子 藤田知子 広川江美子
杉本真知子 新井麻友 法田美津子 宮本京子

【目的】

慢性疾患で通院の中止にはその原因・背景や治療内容を検討することは重要な課題である。高血圧通院者の経年的観察から慢性疾患・高血圧診療のあり方について検討を行う。

【方法】

2009年に任意抽出した高血圧症通院者の100名（男性名38名・女性62名）のうち、2018年3月～5月に継続中の58名と中止の42名このうち死亡23名について、Ⅰ 中止の背景と通院者のリスク、Ⅱ 降圧と処方状況、Ⅲ 死因と背景について検討を行う。

【結果】

Ⅰ ① 継続58名は男性19名57～87歳（平均76歳）、女性39名53～90歳（平均75歳）。中止42名は男性19名、女性23名。

② 中止42名は中断3名、施設入所3名、転院11名、対象外2名、死亡23名。

③ 通院58名の癌既往14名（大腸癌3名、肺癌、胃癌、食道癌、直腸癌各2名、膀胱癌、骨肉腫、子宮癌各1名）で24%。

Ⅱ 58名の平均血圧は127/71で140/90未満は48名82%。

平均降圧剤1.2剤（0剤4名、1剤16名、2剤21名、3剤9名、以上0名）・他剤2.2剤。

Ⅲ 死亡23名は男性9名・女性14名（平均87歳）。うち認知症10名（平均92歳）。癌10名（肺癌3名、膵癌・胆嚢癌各2名、大腸癌・肝癌・骨髄腫各1名：平均84歳）、癌以外13名（心筋梗塞・心不全8名、呼吸不全2名、肺炎・腎不全1名、老衰2名：平均90歳）。

【考察】

Ⅰ 中止の背景は中断・転院・施設入所と死亡であった。通院者4人に1人に癌既往あり慢性・高血圧診療において癌の早期診断・専門医と連携が重要である。

Ⅱ 平均降圧剤は1.2剤で平均血圧は172/71であった。処方の見直しは重要な課題である。

Ⅲ 予後は 高齢、臓器不全、認知症、生活環境が複合し看護・介護との連携が必要である。

【結論】

慢性疾患・高血圧診療において合併症の精査、診療の評価、処方の見直し、予後の検討と地域連携は重要な課題である。